

## 第10回川崎病全国調査における 施設の状況

(分担研究：川崎病に関する研究)

菌部友良<sup>1)</sup>，大川澄男<sup>1)</sup>，川崎富作<sup>1)</sup>，  
中村好一<sup>2)</sup>，柳川 洋<sup>2)</sup>，浅井利夫<sup>3)</sup>，  
原田研介<sup>4)</sup>，加藤裕久<sup>5)</sup>

要約：第10回川崎病全国調査では第9回全国調査に引続き、対象医療機関の施設に関する調査を行った。回答があった1,438施設のうち、冠動脈造影を実施しているところが247施設(17.2%)、断層心エコー検査を実施しているところが1,002施設(69.7%)であった。これを川崎病患者の報告があった949施設のみで集計すると、冠動脈造影検査217施設(22.9%)、断層心エコー検査813施設(85.7%)であった。断層心エコー検査の実施者は小児科常勤医65.2%、小児科非常勤医12.8%、他科の医師18.2%であった。

見出し語：川崎病，冠動脈造影検査，断層心エコー検査

### 【方法】

第10回川崎病全国調査では、第9回<sup>1)</sup>同様、川崎病患者の心臓の管理に関する医療機関の状況調査を行った。調査項目は資料に示すように、対象施設の小児科の状況、冠動脈造影検査(CAG)実施状況、断層心エコー検査(2DE)の実施状況などである。

なお、第10回川崎病全国調査は1987年、1988年の初診患者を対象に、小児科を標榜する100床以上

した。

### 【結果】

1,438病院より回答があった(回答率83.9%)。このうち川崎病患者の報告があったのは949病院(66.0%)であった。

回答施設の小児科病床数は9床以下406病院(28.2%)、10~24床394病院(27.4%)、25~49床300病院(20.9%)、50床以上103病院(7.2%)、不明235病院(16.3%)であった。小児科常

1) 日本赤十字社医療センター小児科 Department of Pediatrics, Japan Red Cross Medical Center  
2) 自治医科大学公衆衛生学教室 Department of Public Health, Jichi Medical School  
3) 東京女子医大第二病院小児科学教室 Dept. of Pediatr., Tokyo Women's Med. Col. Daini Hosp.  
4) 日本大学医学部小児科学教室 Dept. of Pediatrics, Nihon University School of Medicine  
5) 久留米大学医学部小児科学教室 Dept. of Pediatr., Kurume University School of Medicine

勤医師数は0人120病院(8.3%)、1人365病院(25.4%)、2人294病院(20.4%)、3人184病院(12.8%)、4~6人212病院(14.7%)、7~9人46病院(3.2%)、10人以上82病院(5.7%)、不明135病院(9.4%)であった。

CAGを実施している機関は247病院(17.2%)であった。川崎病患者の報告があった949病院に限ると、217病院(22.9%)で実施していた。都道府県別にみると、1県を除いた46都道府県で少なくとも1か所の病院でCAGを実施していた。

2DEは1,002病院(69.7%)で実施していた。川崎病患者報告施設では、949病院中813病院(85.7%)で実施していた。都道府県ごとの観察では岐阜県の88.9%から熊本県の48.0%までばらつきがあるものの、ほとんどの都道府県で半数以上の病院が実施していた。2DEの実施者は小児科常勤医653施設(65.2%)、小児科非常勤医128施設(12.8%)、他科の医師182施設(18.2%)、その他39施設3.9%で、2DEを実施している医療機関の3/4では小児科医が行っていた。

2DEを実施していない施設は305病院あったが、この内の179病院(58.7%)では他の決められた医

療機関で2DEを受けさせていた。

CAG、2DEの実施状況を小児科病床数、小児科常勤医師数ごとに観察した結果を図1、図2に示す。いずれの検査も小児科の規模が大きな病院ほど高い実施割合であった。

#### 【考察】

今回の結果と第9回全国調査の結果<sup>1)</sup>を比較すると、CAGを実施している医療機関の割合は殆ど変化がなかったが、2DEを実施している施設の割合は更に高くなっていった。このことは2DE機器の普及がさらにすすみ、川崎病患者の心臓の管理体制も普及してきたことを意味していると考えられる。また、ほとんど全ての都道府県でCAGを実施している施設があり、地域ごとの川崎病罹患児の管理体制を考えていく上で、参考になるであろう。

#### 【文献】

- 1) 菌部友良ら：川崎病全国調査対象施設の医療状況 - 断層心エコー検査を中心に - : Prog Med, 8, 7~12, 1988.

図1 小児科病床数別冠動脈造影検査・断層心エコー検査実施割合

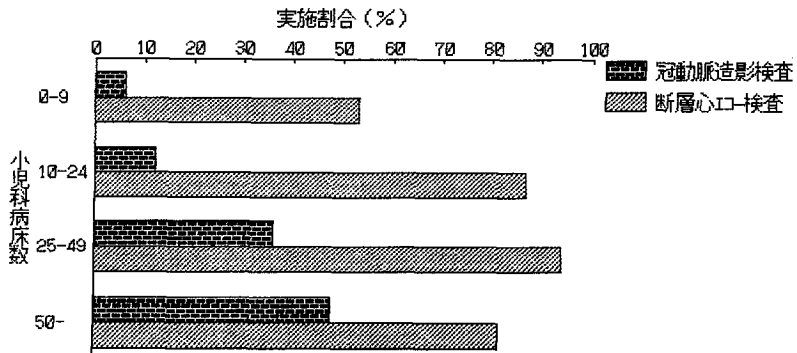
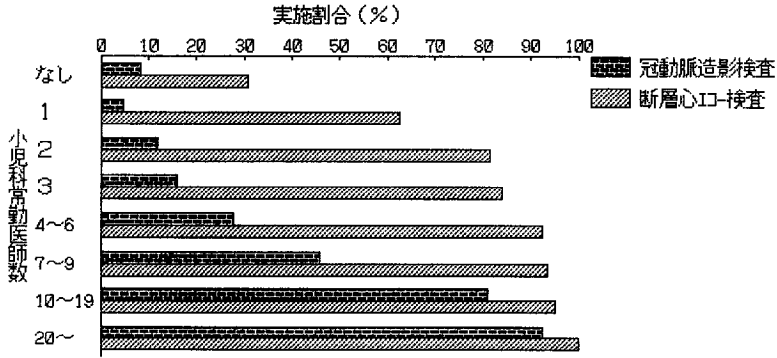


図2 小児科常勤医師数別冠動脈造影検査・断層心エコー検査実施割合



資料

**施設に関する質問** (本調査票を2枚以上ご使用の場合は1枚目にご記入下さい)

1 貴院のベッド数はいくつですか  
 病院全体  床 小児科 (一般病棟のみ)  床

2 貴院の小児科医は何人ですか  
 常勤医  人 非常勤医  人

3 冠動脈造影検査を貴院で行っていますか  
 1 はい 2 いいえ

4 今回ご報告いただいた症例のうち、主要症状4つのみで、冠動脈瘤(拡大も含む)が認められたために本症と診断されたものは、何例ですか。(診断の手引きの赤字に相当する症例)  
 計  例 (男  例, 女  例)

5 川崎病児が入院したら急性期経過中に反復し、貴院で心断層エコー検査ができますか  
 1 はい 2 いいえ

どなたが検査しますか  
 1 小児科常勤医  
 2 小児科非常勤医  
 3 他科の医師  
 4 検査技師

他の決められた病院に検査を依頼しますか  
 1 入院中にする  
 2 退院後にする  
 3 入院中と退院後にする  
 4 しない

差し支えなければ施設名を記入して下さい

Abstract

Characteristics of hospitals where Kawasaki disease patients were treated

Yoshitomo Sonobe<sup>1)</sup>, Sumio Okawa<sup>1)</sup>, Tomisaku Kawasaki<sup>1)</sup>, Yosikazu Nakamura<sup>2)</sup>, Hiroshi Yanagawa<sup>2)</sup>, Toshio Asai<sup>3)</sup>, Kensuke Harada<sup>4)</sup> and Hirohisa Kato<sup>5)</sup>

The hospital survey concerned with management of cardiac lesions of Kawasaki disease were performed in the 10th nationwide survey of Kawasaki disease. Of 1,438 hospitals responded, coronary angiography (CAG) was available in 247 hospitals (17.2%) and two dimensional echocardiography (2DE) was in 1,002 (69.7%). 2DE was performed by pediatricians in three fourths of hospitals. Rates of hospitals where these examinations were available were high in large hospitals with more beds of pediatric departments or with more pediatricians.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:第 10 回川崎病全国調査では第 9 回全国調査に引続き,対象医療機関の施設に関する調査を行った.回答があった 1,438 施設のうち,冠動脈造影を実施しているところが 247 施設(17.2%),断層心エコー検査を実施しているところが 1,002 施設(69.7%)であった.これを川崎病患者の報告があった 949 施設のみで集計すると,冠動脈造影検査 217 施設(22.9%),断層心エコー検査 813 施設(85.7%)であった.断層心エコー検査の実施者は小児科常勤医 65.2%,小児科非常勤医 12.8%,他科の医師 18.2%であった.